

二 假宿舍については、その施設の實情及び官舎居住者等との権衡を勘案して貴官に限り適宜減額することができること。

三 借入官舎の官舎料は、借入料金相當額とすること。

四 職員宿舍及び校舎の一部を職員の住居にあてているものであつて、一室又は數室に數人の職員が居住する場合は、疊一疊當り二圓（借入にかかる宿舍であるときは、借入料金を總疊數で除した金額）として計算したものをその室の料金とし適宜代表者を定め徴收すること。但し、各職員の負擔料金は均等額とすること。

五 月の中途において居住又は明渡しをしたときは、その月分全額を徴收すること。但し十六日以後に居住したとき、又は十五日以前に明渡ししたときは、一ヶ月分の二分の一額を徴收すること。

六 既納の料金は、これを還付しないこと。

七 洋間等疊を使用していない室は、坪數により疊數を算出すること。

八 公用の室についても官舎料金を徴收すること。

九 廊下、臺所、物置、便所等居室以外のもの等は疊數に算入しないこと。

備考

一、官舎の居住順位は従前の例によること。

二、歳入科目は官業及官有財産収入の部官有財産収入の款官有

物貸下料の項建物及物件貸下料の目帝國大學（官立大學、直

轄諸學校）附屬官舎使用料の節とすること。

（自昭和二十一年度至同二十二年度 國有財産關係 東京音樂學校會計課）

（九）第六十回卒業式（昭和二十四年二月）

昭和二十三年度卒業式に於ける校長の告辭概要

本日は大臣始め父兄の方々には雨の降る中をわざわざお出で下さつてこのやうに盛大な卒業式を舉行出來ますことは私の心から感謝致すところであります。

學校の都合でいつもと違つて卒業式が早くなつたので今年の卒業生はこう言ふ意味では損をしてゐると言へます。

卒業が早くなつて本學年の授業が少くなつたばかりでなく今年の卒業生は遊學の初めから大變損をしてゐる。その頃私はゐなかつたけれども、二十年の三月と言へば日本の國が最もわるかつた時で東京は空襲が激しく聞けば試験の時は空襲で、内申書かなにかで定めなければならなかつたこととあります。四月五月と日本の殊に東京は激しい空襲が休みなく續き従つて二十年に入學の人は空襲ばかりでなく勤勞動員で學校の席が暖まる暇もなく、それが續いて八月の終戦となり、前校長がやめたりごたくがあつたり二十年から二十一年三月にかけては殆んど落付かなかつたのであります。さう言ふ意味で損をしてゐます。時が已むを得なかつたとは言へ學校としても申譯けなくお詫びし度い氣持であります。それにも拘らず、今年の卒業生は先生方のお話のよると大體に於て去年より成績が良いさうであります。

去年のやうに江藤君や園田君のやうな人はないけれど、尤もこのやうな人は二十年か三十年に一度しか出ないもので、それらをとりのければ今年は大體良い成績であります。

不便な勉強でありましたがそれにひるまないで勉強した結果が今

日あらはれたことはまことに愉快であります。諸君も専門の先生方の批評を聞けば満足に思はれるでせうが大事なことは満足すると言ふ事でありませう。力が認められ評判が良いこと、これは満足すべきことでありませう。しかし、や、もすれば満足し、自惚れてい、氣になり、その先がのびなくなると言ふ場合をひき起しやすしい。

満足しなければ愉快にはなれない、しかし、それだけではいけない。俳句で有名な芭蕉の言つた言葉に底を入れて底をぬくと言ふ言葉があるが、一升樽に底があれば一升だけしか入らないでそれから先の大きさは望めない。

自分の藝術がある程度進歩し満足すればその人は樽に底を入れた事になりぬ。芭蕉は俳句で底を抜け自分の藝術に底を入れるなど言つてゐるがそれは單に藝術のみならず學問でも同じで、底を抜いて分量を無限大にするやう努力して貰ひ度い。音楽學校を卒業する人は世に出で少し優秀だと世間がちやほやし、マネジャーが追ひかけて、北海道や九州へ引張りまわし、當人は世の中の人が歓迎してくれるのでうれしさにつりこまれ満足するとともにい、氣になり、自分の藝術に底を入れる。卒業の時學校では優秀だった人も情落するし、折角學校時代未來ある人と囑望された人がいつのまにか世間に棄てられるやうになるからよく／＼警戒され度い。

結局藝術をやる人は一方い、氣にならねば進歩しないことは勿論だが自分が全力を盡し努力した結果認められ優秀だといわれることは、満足すべきことではあるが、それにとどまてはいけない。

牛が一度に食べたものを少しづつ、出しては食べるが、自分の評判を食するだけに氣をくばり、自分の何時もめがける理想をないがし

ろにしては到底その藝術は進歩しない。

どうか一度は満足しても良い世評を迎へても良いが、自分で底を入れるやうなことはしないやう注意され一歩／＼理想に近づくやう努力して貰ひ度い。卒業後も絶へず自分を返り見てその道に精進して貰ひ度い。

漱石は五十で死んだがその年に或若い二十台の禪坊主の生活態度を見て、自分は馬鹿で貴方のやうに道を極めることが出来ず恥しい、自分のところに來る若い弟子はあなたにくらべると全く駄目だこれでも自分が愚かで弟子を向上させ得なかつたためにかうなつたことは恥しいと手紙にかいてあつたが、あの位日日努力した人でさへも自分の精進の到らないため弟子を感化出来なかつたとその人の前で反省してゐる。若い人達にこのことを良く考へて貰ひたい。彼の偉い所はそこにある。彼は底をとつて高いところをめざし日日努力を怠らなかつた。

どうかこう言ふ例も近くにあるのですから、諸君もよく／＼精進して下さい。満足すべき時に最後の注意を申上げのびる諸君の前途を祝ふ言葉にかへたいと思ひます。

昭和二十四年二月廿五日 於 奏樂堂

(手書き)

(昭和二十三年度 第六十回卒業式並修了式一件書類)

(十)「母校だより」(『同聲會報』より)

母校だより(昭和二十二年)

最近約一ケ年間の母校に關する主なニュースをお傳えます。